

La Informilo de Nagoja Esperanto-Centro

センター通信 第312号

2024年4月25日発行

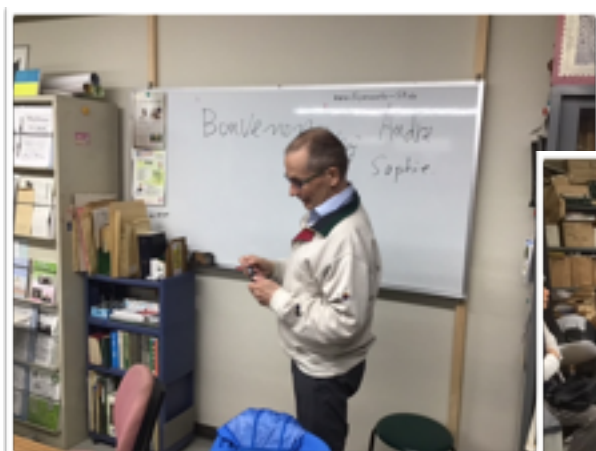
発行：名古屋エスペラントセンター Nagoja Esperanto-Centro

461-0004 名古屋市東区葵一丁目26-10ユニール新栄301号

公式サイト <http://nagoja-esperanto.a.la9.jp/>

Facebookページ <https://www.facebook.com/nagoja.esperanto>

郵便振替口座 00840-8-40765 「名古屋エスペラントセンター」



Andréさん歓迎会（14頁）



◀◀ 目次 ▶▶

維持員総会の記録	2
庄子信氏の思い出（伊藤俊彦）	10
エスペラントを学んで（笠井闘志）	13
Andréさんを迎えて（山口眞一）	14
Mesaĝo de UEA: la Internacia Tago por Eliminado de Rasa Diskriminacio	15
寄付のお礼・活動日誌	16
今後の活動予定	17
編集後記	18

維持員総会の記録

概要

場所 名古屋エスペラントセンター事務所

日時 3月9日（土）14時～16時半

議長 後藤みわこ

書記 水谷良典

現出席12名（内リモート2名）＋委任状12名＝24名
（維持員総数45名のうちの過半数で総会成立）

（１）事業報告

（1-1）インターネット関連

（1-1-1）ウェブサイト

- ・ 2023年12月19日 [行事案内・報告]2023年ザメンホフ祭の報告を追加
- ・ 2022年11月20日 [行事案内・報告]行事案内 を更新し、ザメンホフ祭の情報を追加
- ・ 2023年11月20日 [通信より]「センター通信」バックナンバーのPDF版を追加（305号）
- ・ 2023年10月23日 [講習会・学習会]学習会（講習会）を更新。
- ・ 2023年10月18日 [通信より]「センター通信」バックナンバーのPDF版を追加（304号）
- ・ 2023年6月26日 [講習会・学習会]学習会（講習会）を更新。
- ・ 2023年6月25日 [通信より]「センター通信」バックナンバーのPDF版を追加（303号）
- ・ 2023年4月23日 [NEC案内]委員会メンバーを更新。
- ・ 2023年4月23日 [通信より]「センター通信」バックナンバーのPDF版を追加（302号）
- ・ 2023年4月4日 [本と批評]>[読書日記]を更新し、"La malamiko de Putin"を追加
- ・ 2023年4月4日 [通信より]「センター通信」バックナンバーのPDF版を追加（301号）。

上記の通り、11回の更新を行った。（昨年度の更新回数は9回）

（1-1-2）Facebookページ

- ・ 「いいね！」222件（前年対比+12）・フォロワー数240人（前年対比+19人）

- ・2023年は12本の記事がアップされた（前年対比-5）。イベント報告、読書会関連情報など（山口10本、伊藤2本）

（イベント告知と報告7本、講習会2本、読書会2本、シェア1本）

(1-1-3) メーリングリスト [esperantistoj_de_tokai]

- ・投稿総数15件（前年対比+10）
- ・情報交換や意見交換の場として設けられている。実質的にNEC関係の告知がほとんど。メール転送や事務連絡、質問が少し。
- ・配信メンバー49人（前年対比+6）

(1-1-4) 掲示板

- ・14件の記事。うち12件はすべてセンター事務所使用予定（活動予定）。2件は個人学習者からの投稿（意図不明な投稿もあり。頻繁な対応はしかねる）

(1-2) 企画教育

(1-2-1) 中級講習会

毎月2回または1回 17:30-19:30（全19回実施）

会場：事務所

参加人数：4名

講師：小川一夫

内容：雑誌記事やネット記事のコピー。自由作文。Fundamenta Krestomatioなど

(1-2-2) 入門講座（終了）

第5期：1/5 => 以後、フォローアップ講座へ引き継ぎ

会場：中区生涯学習センター

講師：永瀬義勝

参加人数：3人

教材：「ニューエクスプレスプラスエスペラント語」

受講料：5000円

(1-2-3) 入門講座（新規）

計画し、コラボフェスタでチラシを配ったが、受講申し込みがなかった

(1-2-4) フォローアップ講座

原則的に毎週木曜日

会場：事務所

講師：小川博仁

教材：「ニューエクスプレスプラスエスペラント語」

受講：1人

(1-2-5) オンライン作文講座

隔週月曜日

Zoomによるオンライン

講師：山口眞一

毎回12問ほどの作文を課し、講評をする

受講：1人（4月から3人に増）

(1-2-6) ミニ講演会

3/12、事務所にて

「ザメンホフ全集発刊50周年によせて」（永瀬義勝）

「オンライン日本大会について」（堀田裕彦）

「トリノ観光案内」（伊藤俊彦）

参加：13人

責任者：山口眞一

(1-2-7) Ho Song講演会

6/12、事務所にて

テーマ：”Kiel koreoj kaj japanoj efike lernu kaj studu Esperanton?”

参加：8人

(1-2-8) 愛知サマーセミナー

7/17 愛知サマーセミナーに講座「国際語エスペラント」を出講

会場：名古屋大谷高校

講師：小川博仁、他スタッフ5人

受講10人（前年対比+1）

責任者：山口眞一

(1-2-9) ワールドコラボフェスタ

10/15 ブース出店

オアシス21「銀河の広場」

スタッフ4人

およそ220人の来場者と交流（去年のほぼ2倍）

責任者：後藤みわこ

(1-2-10) ザメンホフ祭

12/17 事務所にて

司会進行：山口眞一

19人（前年対比+7）

内容 （1）全員のスピーチ

（2）講演3本

ジョセフ・エサティエ「齋藤秀一、ローマ字運動、エスペラント」

中川裕貴「日本エスペラント大会に参加して」

伊藤俊彦「八ヶ岳エスペラント館の紹介」

懇親会には9人参加

(1-3) 機関紙

(1-3-1) 各号の内容

第307号／1月30日発行 12ページ

ザメンホフ祭2022 (山口眞一) ／ザメンホフ祭の感想 (佐野一喜) ／アフリカに本を送ろう／Mia Luktado tra KER-ekzameno (Mizutani Jošinori) ／Vidindaj Lokoj en kaj ĉirkaŭ Nagojo (14) (Yamaguti Sin'iti) ／ハヶ岳エスぺラント集中学習2023 (沼津エスぺラント会) ／活動日誌／入門講習会報告／維持員総会案内・ミニ講演会／編集後記

第308号／4月30日発行 20ページ

維持員総会の記録／センター委員長からのご挨拶 (小川博仁) ／翻訳テンマツ記 (森田明) ／VIZIOJ AFEKTAJ ILUZIOJ AFLIKTAJを読んで (山口眞一) ／ハヶ岳エスぺラント館にようこそ (伊藤俊彦) ／ホリゾン塾のこと (伊藤俊彦) ／書評：DIO NE HAVAS EKLEZION (水谷良典) ／Mesaĝo de UEA: la Internacia Tago por Eliminado de Rasa Diskriminacio／ミニ講演会報告・活動日誌／ご意見・近況・編集後記

第309号／7月17日発行 8ページ

Ho Song さんを迎えて／Kelkajn tagojn kun malnovaj geamikoj en Ena (Ho Song) ／Vidindaj Lokoj en kaj ĉirkaŭ Nagojo (15) (Yamaguti Sin'iti) ／Sinprezento de nova membro (相原輝) ／今後の活動／活動日誌・編集後記

第310号／10月19日発行 18ページ

愛知サマーセミナーに参加して (小川博仁) ／ワールドコラボフェスタ報告 (後藤みわこ、湯浅典久) ／Ni revizitis Torinon (Ito Toshihiko) ／UKトリノ大会旅行記 (水谷良典) ／今後の活動／活動日誌・編集後記

(1-3-2) 総括

◎発行回数は昨年度と同様、総頁数58 (前年対比+6) 。

◎クラウドストレージ (box) に、最新号も含めて全バックナンバーあり。

センター委員のうち6人にシェア (閲覧権限付与) されている。

電子ファイル受取希望の維持員12人および、機関誌交換8団体には、個々のファイルをシェア

◎ここ数年、年4回ペースを維持しており、ルーチン化した

(1-4) 蔵書

(1-4-1) 暫定版蔵書リスト作成 (2023/5)

湯浅と今井田で入力していたデータを統合し、「暫定版蔵書リスト」を作成。蔵書全体の3分の2程度にあたる、1760タイトル (重複本含めると約2000冊分) 登載。今後、残り3分の1の入力と重複本の整理・処分をすすめていく。

検索できる蔵書リストがあるのは非常に有用であるうえ、維持員および他会にむけてもアピールになるので、できるだけ早く完全版を作りたいが、現状としては進んでいない。

(1-4-2) エスペラント図書連絡網 (2023/9)

JEIから「エスペラント図書連絡網」構想への参加について打診あり。目的は、1. JEI会員専用ページにて連絡会参加組織のリストを公表、2. 蔵書問い合わせについて対応、3. 施設自体がなくなる場合などの情報共有、とのことで、協力する旨と必要事項を回答。その後進展はなし。

(1-4-3) 緑丘会雑誌引き取り (2023/10)

伊藤俊彦さんを通じて、和歌山緑丘会・福本博次さんから、製本雑誌計6冊を引き取った。

戦前に当時の日本の考え方を外国に紹介した全文エスペラントの小冊子『La Suno』と、緑丘会関係で戦前・戦後に発行した機関誌。

(1-4-4) 阪蔵書の引き取り (2023/12)

三重の山本修さんを通じて、阪直さんの旧蔵書を引き取った。当初は息子の学さん、山本さんとセンター委員数名で阪さん宅を訪れ取捨する予定であったが、日程の都合もあり山本さんがまとめて引き取り、蔵書リストを元に所蔵がない108タイトルを送ってくださった。リストが暫定のため実際は一部重複あり。委員会で検討の際、旧阪蔵書であることの明示は特にしないこととした。現在は食器棚跡の新しい棚にまとめて入れてある。

【参加者からの意見】蔵書リストは完全でなくてよいので、早めにβ版として公開してほしい。少しずつ追加修正をすればよい。

(1-5) 読書会

(1-5-1) 日時・会場

2023年の日程は以下のとおり。前年に引き続き原則Zoomでオンライン開催。

1／24、2／28、3／29、4／18、5／30、6／27、8／29、9／26、
10／24、11／29、12／19 合計11回開催。

(1-5-2) 参加者

毎回5～6名。

(1-5-3) 進め方等

毎回、予め指定された範囲（6～7ページ程度）を予習し、当日は参加者が順番に1ページほど読んだ上で内容を要約し、その後、テキストの解釈をめぐって自由に発言し、討論するという昔ながらの講読のやり方で進めた。

(1-5-4) 実施状況の報告・次回の予告

読書会の内容を名古屋エスペラントセンターのFacebookで随時報告している。
2023年は、3／29、8／30の2回報告。

また、センターのホームページの掲示板で毎回の日程を掲載している。

(1-5-5) テキスト

読書会Ni legu は2014年6月12日発足以来、間もなく10年になろうとしている。これまでに読んだテキストは以下のとおりである。

・Hori Jasuo “Raportoj el Japanio 15”	2014.6.12～	6回
・Julian Modest “Mara Stelo”	2015.1.29～	5回
・雑誌 Monato	2015.07.28～	7回
・Julian Modest “La viro el la pasinteco”	2016.02.24～	10回
・István Nemere “Krokize de mia ĝardeno”	2017.01.27～	7回
・Kalle Kniivilä “Homoj de Putin”	2017.08.16～	26回
・Julian Modest “Dancanta kun Ŝarkoj”	2019.12.18-2022.2.25	18回
・Júlia Sigmond “Júlia Sigmond 90”	2022.03.22-2024.1.30	21回
・“Amo,tuso kaj forpaso”	2024.2 / 27	1回

(1-5-6) まとめ

コロナ禍と日本大会準備のため、2020年1月28日でいったん休会。その後、11月24日再開。以来、原則毎月オンラインで開催。月に1回と回数も少なく、遅々とした歩みながら、参加者全員でエスぺラントのテキストを読み、作者の意図や時代背景を考えつつ議論している。

この2月から“Amo,tuso kaj forpaso”を読み始めた。本書はコロナ禍の社会と人生をテーマとするInterkultura Novelo-Konkurso の最終選考に選ばれた短編・掌編を収録している。

(2) 決算報告

(2-1)決算書

2023年度決算書（会計年度 2023年1月～12月）			
収入の部			
科目	予算	決算	増減
前年度繰越金	355,311	355,311	0
現会員（44）	550,000	509,000	-41,000
新再会員(1)	90,000	4,000	-86,000
寄付	100,000	211,732	111,732
事業収益費	30,000	21,000	-9,000
本の売上	30,000	21,100	-8,900
その他	0	16,800	16,800
計	1,155,311	1,138,943	-16,368

支出の部			
科目	予算	決算	増減
家賃	448,800	448,800	0
共益費	158,400	158,400	0
保証協会	7,596	7,596	0
電気代	100,000	102,123	2,123
通信作成代	18,000	16,110	-1,890
郵送代（切手代）	30,000	8,792	-21,208
蔵書製本費	10,000	0	-10,000
図書購入費	10,000	13,200	3,200
サーバー使用料	25,920	25,920	0
事業費	0	27,200	27,200
その他	10,000	18,700	8,700
小計	818,716	826,841	8,125
次年度繰越金	336,595	299,436	-37,159
計	1,155,311	1,126,277	-29,034

(2-2) 貸借対照表

貸借対照表（2023.12.31）				
資産の部		負債資本の部		備考
郵便振替口座	20,294	前受金	636,400	会費前払分
ゆうちょ銀行	109,222			
三菱UFJ銀行	4,835			
現金	165,085			
未収金	51,500	通算損失	-285,464	
合計	350,936	合計	350,936	

(3) 事業計画

- 入門講座（コラボフェスタ・サマセミ来場者の受け皿として）
- 中級講座および継続講座、オンライン作文など
- ランチ会（飲食しながらE会話を楽しむ）
- ワールドコラボフェスタ
- 愛知サマセミ
- ザメンホフ祭
- NEC50年活動史（年表）-- 表形式で6月までに完成予定

これ以外に関しては、案が出た時に個別検討する
事業ごとに担当者を決め、委員長がとりまとめる

(4) 予算書

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	299,436	家賃	448,800
現会員	550,000	共益費	158,400
新再会員	30,000	保証協会	7,596
寄付	200,000	電気代	100,000
事業収益費	30,000	通信作成代	18,000
本の売上	30,000	郵送代（切手代）	9,000
その他	10,000	蔵書製本費	10,000
		図書購入費	10,000
		サーバー使用料	25,920
		その他	20,000
小計	850,000	小計	807,716
		次年度繰越金	341,720
計	1,149,436	計	1,149,436

(5) 委員選出

下記の8名を選出しました。

小川博仁、山口眞一、今井田健二、湯浅典久、
堀田裕彦、伊藤俊彦、永瀬義勝、後藤みわこ

総会に続き、第1回センター委員会で委員長及び副委員長を互選し、総会において承認を受けました。

委員長 小川博仁
副委員長 山口眞一、今井田健二

(6) その他の意見

竹崎基金からの援助を受けてはどうか。しかし、そのためには故・竹崎氏を除名の
取り消し（名誉回復）が条件になるのではないか。その再検討をどうするのか。

（これについては、次期委員会で継続審議するものとする）

庄子信氏の思い出

伊藤 俊彦

庄子信氏が2023年12月17日未明に亡くなった旨を伝えるメールが仙台エスペラント会の今泉久典氏から名古屋エスペラントセンターの山口眞一氏あてに届いたのは昨年12月19日、それが私のところに転送されたのが翌20日で、葬儀当日の朝のことだった。突然のことで驚いたが、かねてから入退院を繰り返していたことは承知していたので、ついに来るべきものが来たという感じもした。私が弔電を送ることになったが、葬儀まで時間の余裕がほとんどない。それでも斎場に直接連絡したところ、担当者が配慮してくれて、何とか葬儀に間に合わせることができたのは、せめてもの幸いであった。慌てて書いたので文面は整っていないが、弔電は以下のとおりである。「庄子信様のご逝去のお知らせにただ驚いております。かつて名古屋でともに活動し、議論した日々が思い出され、悲しみに暮れております。ご冥福をお祈り申し上げます。 名古屋エスペラントセンター 伊藤俊彦」

庄子信氏と名古屋で交渉のあった人は今や少ないだろう。以下、彼の人生の軌跡、彼との交友について、思い出せる限りで取りとめもなく書いてみたい。

彼は1958年、仙台市生まれで、高校生のときに山岳部で登山中に滑落し、終生車椅子で過ごした。大検に合格し、日本福祉大学に入学、1985年に卒業、1986年に仙台市に戻った。したがって、1980年代前半と一緒に遊んでいたということになるだろう。なお、日本福祉大学ははじめ名古屋市昭和区にあったが、1983年に知多郡美浜町に移転し、それに伴って彼もそちらに引っ越したように記憶している。

彼がセンター通信に書いているところによれば、1982年に名古屋エスペラントセンターに入会したとのこと¹。当時、センターは東新町の古びたビル²の2階にあって、彼が来ると、4人がかりで車椅子を持って、階段を担いで上げたものだった。当時、こちらも独身だったこともあって、エスペラント以外にも、彼が運転する車に乗せてもらったりして、あちこちに出かけた。ミ



¹ 庄子信「名古屋を離れます」（センター通信116号（1986年6月8日発行）に掲載）

リオン座で映画を見たことを覚えている。彼はtempoについて卒論を書くとき張り切っていたが、結局提出しなかったようである²。しかし、彼は読書家であり、本についてよく議論した。

彼とは確か盛岡市でも会った。平壤冷麺を食べたおぼろげな記憶がある。宮沢賢治ゆかりの光原社にも寄った。あれは確か第71回日本エスペラント大会が盛岡市で行われたときだった。とすると、1984年8月18日から20日のことになる。会場で2階にエレベーターで上がろうとしたが、使用停止になっていたことを思い出す。事務局に連絡したが、その後どうしたのか全く記憶にない。

そういえば、仙台市で会ったというおぼろげな記憶もある。瑞巖寺に案内してもらったりした。今はどうか知らないが、ここでも彼は車椅子なので本堂に上がれず、外で待っていてくれたのだ。資料を見ると、1992年8月29～30日に松島町で第79回日本エスペラント大会が開催されたとあるので、それに参加したのだろうと思うが、今や全く忘却の彼方である。

前後するが、東片端にあった名古屋通信病院に入院中の彼を見舞ったこともある。1986年5月、同病院を退院後、彼は仙台に戻ったようなので、その前のことか。その後、卒業後の1987年の私の結婚式にも出席してもらった。また、暮には生ガキや牛タンなどをしばしば送ってくれた。彼は、いつからかは不詳だが、肢体不自由児のための施設である仙台自立の家で情報処理の指導員を長いこと務めていた。その関係で私はその後援会の活動をずっと支援した。

仙台市では仙台エスペラント会の活動に積極的に参加していたようだが、詳しいことは知らない。1992年には6月から7月にかけて3週間、サンフランシスコ州立大学の夏期大学エスペラント講座に単身参加した³。

2017年11月3～5日に横浜で第104回日本エスペラント大会が行われたとき、彼は単身仙台から参加し、たまたまホテルが横浜スタジアムの近くで隣どうしだったこともあって、ホテルのラウンジで話した。直接会ったのはずいぶん久しぶりのこ

² tempoは、1934年から40年にかけて、京都市のカニヤ書店から発行された全文エスペラントの雑誌。当時の関西を中心とするエスペランティストたちの良心を示す、水準の高い文化誌である。その意義については、伊藤俊彦「テンポの歴史的意義」（名古屋エスペラントセンターのホームページ掲載）及び『歴史・文学・エスペラント』（名古屋エスペラントセンター、2020年）P176～183を参照。1982年、名古屋エスペラントセンター出版会から復刻版刊行。当時の編集長の野島安太郎氏による回想、『危険な言語』の著者ウルリッヒ・リンズ氏の論文を収録。475ページ。

³ 庄子氏は、このときの様子を地元紙に5回にわたって寄稿した「ぼくの留学記―障害学生体験レポート」で詳細に語っている（河北新報1992年8月24日～31日）。また、この連載は、センター通信第162号（1992年11月26日発行）及び第163号（同12月14日発行）に転載されている。

とで、彼はわれわれ夫婦を前にとめどなく語り続けた。その翌年3月、われわれが東日本大震災の被災地を訪れたあと、堀泰雄さんとともに、仙台市立病院に入院中の彼を見舞った。それが彼に直接会った最後の機会となった⁴。後藤斉氏からのメールによれば、2019年までは仙台エスぺラント会の活動に参加していたが、その後は入退院を繰り返していたとのことである⁵。

彼とは、本の話、音楽や映画の話などについて、初めは手紙で、やがてメールでとりとめもなく意見や情報交換をした。入院中に中里介石の『大菩薩峠』を読み返しているとメールで書いていたのを覚えている。彼からの手紙やメールのコピーが相当残っているが、うっかり開けたら、こちらの過去にも直面することになると思うと、まだ見る気になれない。2021年10月4日に入院中の彼とビデオチャットしたのが彼と話した最後であった。

彼は両脚をひざから切断し、「足がないから幽霊だ」と自称していた。たびたび入院を繰り返していたが、人前では泣き言を言わず、元気であった。しばしば電動自転車で弟さんと一緒に長距離ドライブにも出かけていた。戯れに私のことを「アニさん」と呼んでくれたりした。いくら考えても詮ないことではあるが、彼がなぜあのような苦難の人生を送らねばならなかったのかと思うと胸がつぶれる。名古屋エスぺラントセンターあるいは名古屋ゆかりの仲間では、伊藤真理子、小倉英敬、後藤正治、柘植已知彦、前田愛子さんなど私と同世代の人たちがすでに旅立った。このたびは私よりも6歳も若い庄子信氏が先に逝ってしまい、毎日やり場のない悲しみに包まれている。

⁴ このときの被災地訪問については、堀泰雄氏の以下の著書に詳しく述べられている（ただし、庄子氏との面会については言及がない）。

堀泰雄『世界の旅人・堀さんのエスぺラント気ままエッセー8』（同、2018年） p74-85
HORI Jasuo “Raportoj el Japanio 21”(ホリゾント出版、2019年) p63-75

⁵ 仙台エスぺラント会で庄子氏と長らく活動とともにされた三瓶圭子さんは、その追悼文で、仙台における彼の活発な活動やその人柄について回想している（「追悼 庄子信さん」La Revuo Orienta 2024年4月号、p.21）。

エスペラントを学んで

笠井 闘志

西暦2022年のはじめから、私はエスペラントを学んでいる。私がエスペラントについて知ったのは、西暦2015年ころ。11ないし12歳のときだ。インターネットで世界の言語について調べていたとき、たまたまエスペラントについて書かれたウェブ記事を発見した。そのときエスペラントに興味を持ったものの、難しそうに感じたため学ばなかった。

それから5年以上が経った2022年の春、私は高校三年生になっていた。書店で偶然、大類善啓（2021）『エスペラント』（批評社）を見つけ、あのときエスペラントに対して抱いていた興味が呼び起こされた。そして私は、エスペラントを学びはじめることにした。

自由に利用できる百科辞典「ウィキペディア」には、エスペラント版がある。身のまわりの物や住んでいる地域など、身近なものごとを説明する記事も多い。エスペラントの読解力を訓練するには、かなり有用だと感じた。ちなみに、旅行ガイド「ウイキボヤージュ」や辞書「ウィクショナリー」にもエスペラント版がある。これらは、ウィキペディアと同じくウィキメディア財団によって運営されている。

文章を読み書きするだけでなく、エスペラントを使って会話してみたいと思い、オンライン講座『Ni parolu!』を受講した。担当してくださった講師の方はとても親切で、エスペラントの学習に対する意欲もさらに高まった。

日本でいうところの青空文庫のように、海外にも自由に利用できる作品を収集し、頒布するプロジェクトがある。そのなかでも多言語の作品を頒布している、プロジェクト・グーテンベルク(<https://www.gutenberg.org/>)から、エスペラントで書かれた書籍を電子データで入手し読んでいる。プロジェクト・グーテンベルクの存在は以前から知っていたが、エスペラントの書籍も所蔵されているということは、「Ni parolu!」の講師の方が教えてくれるまで知らなかった。

私は旅をするのが好きだ。さまざまな地を旅し、それぞれの文化に触れてみたい。多様な視点から世界を見てみたいと。エスペラントを使えば、文化を共有し、多様な視点を見につけることができると思う。エスペラントを、これからも学びつづけたい。

私のウェブサイト

<https://kasaitoushi.nagano.jp>

André (アンドレ) さんを迎えて

ドイツ（シュベリーン, Schwerin）から、エスペ란チストのAndré Christian Weberさんが姪のSophieさんと共に、名古屋を訪れました。名古屋エスペラントセンター会員の水谷良典さんと、2019年の世界エスペラント大会（フィンランド）で知り合い、そのつてによるものです。

3月31日に名古屋に京都から名古屋に到着、翌4月1日には、センター事務所において歓迎会を開きました。10人が参加。わかりやすいエスペラントで、自分の経歴やエスペラント活動、地元の紹介などをしていただきました。4月3日まで名古屋に滞在し、この間、水谷さん、小川一夫さん、平石奈保美さんが市内を観光案内しました。残念ながら桜の満開には間に合わなかったようです。

シュベリーンのエスペラント会の歴史は長く、1905年に詩人のMarie Henkelおよび作家で歴史学者・教育学者のGotthilf Sellinらによって創立されました。Andréさんは歓迎会の際に、会の紹介とともに、Marie Henkelの詩を朗読されました。以下に再現いたします。

La simbolo de l' amo

Rozujo sovaĝa, simbolo de l' amo,
En vintro vi staras sen ia ornamo!
En kampo vi nuda ĉagrenas dezerte,
Rozujo, malvarmo mortigos vin certe.
Mallaŭte tre dolĉa voĉeto elsonas:
„Silentu, silentu, mi dormon bezonas,
Min nutras denove patrino la tero.
Trankvile atendas mi ĝis la somero.“
Dormantan rozujon printempo vekigis,
Somero ĝin riĉe kaj bele florigis.
Ho, donu al mi nun kroneton belfloran,
Girlandan, balancan kaj brile koloran!
„Ne tuŝu, ne ŝiru floraron, la mian.
Mi pikos, mi vundos la manon, la vian,
Pro amo mi miajn floretojn defendos,
Pro amo mi miajn pikilojn forsendos.“
Al vento ĝi florofoliojn oferis,
Aŭtune la fruktoj fiere aperis:
Rozujo, simbolo de l' amo vi estas,
Trankvila, alloga, kuraĝa vi estas.

(山口眞一)

Mesaĝo de UEA okaze de

la Internacia Tago por Eliminado de Rasa Diskriminacio

21 marto 2024

[Mesaĝo sendita al UN. Kun afabla peto republikigi ĝin en viaj lokaj kaj landaj gazetoj kaj aperigi ĝin en viaj aliaj komunikiloj. Dankon!]

Parolantoj de la Internacia Lingvo Esperanto troviĝas en ĉiuj partoj de la mondo, inter homoj apartenantaj al multaj popoloj, kulturoj kaj vivmanieroj. Ili estimas la komunajn trajtojn kiuj ebligas la komunan vivadon sur nia planedo kaj ili montras tiun ligitecon per la uzado de aldona, internacia lingvo por ĉiuj homoj. Ili uzas Esperanton ankaŭ por esplori la riĉecon de la diversaj kulturoj de la mondo.

Okaze de la Internacia Tago por Eliminado de Rasa Diskriminacio la 21-an de marto 2024, la parolantoj de Esperanto, solidare kun Unuiĝintaj Nacioj, atentigas, ke klopodoj disdividi la homojn laŭ ekskludaj, nesciencaj kaj falsaj kategorioj konsistigas la radikojn de militoj kaj aliaj formoj de maljusto: tiuj klopodoj semas miskomprenojn, suspektojn kaj perfortojn.

Ni asertu kaj reasertu, ke ĉiu doktrino de rasa supereco kaj

malsupereco estas science falsa, morale kondamnenda, socie maljusta kaj danĝera, kaj devas esti malakceptata.

Antaŭ pli ol 75 jaroj, post la katastrofaj detruoj de monda milito, la internacia komunumo, aŭ, pli precize, “ni la popoloj”, decidis, pere de la Universala Deklaracio de Homaj Rajtoj, labori por krei mondon de plenaj rajtoj por ĉiuj homoj “sen kia ajn diferencigo, ĉu laŭ raso, haŭtkoloro, sekso, lingvo, religio, politika aŭ alia opinio, nacia aŭ socia deveno, posedaĵoj, naskiĝo aŭ alia stato.” La Deklaracio estas kaj restas la fundamenta gvida principaro de Universala Esperanto-Asocio, kiu, sekve, firme kontraŭas ĉiun formon de maljusta diskriminacio – inkluzive de diskriminacio surbaze de la lingvo kiun oni parolas kaj diskriminacio surbaze de raso kaj rasismo. Ni alvokas al Unuiĝintaj Nacioj daŭrigi sian laboron kontraŭ rasismo kaj ĉiuj formoj de nejusta diskriminacio kaj promesas nian subtenon de tiu laboro.

寄付のお礼

本誌前号で小川委員長より「センターの財政状況についてのご報告とお願い」を申し上げましたところ、以下の方々より多大なご寄付を頂戴しました。ここにあらためてお礼申し上げます。

森田明様	16万円
森明人様	2万円
河野敏宏様	5万円
別府良孝様	8万円

日本エスぺラント協会でも、新会館建設のために寄付を募っているところでもあり、はなはな心苦しくはあるのですが、引き続きのご支援をいただければさいわいです。

活動日誌（1月から4月）

1/8（月）20時から21時 作文教室（オンライン）
1/11（木）19時から20時半 フォローアップ講座
1/12（金）17時半から19時半 中級学習会
1/15（月）19時から20時半 フォローアップ講座
1/18（木）17時半から18時半 事務所整頓作業
1/18（木）18時半から19時 センター通信発送作業
1/18（木）19時から20時半 センター委員会
1/22（月）20時から21時 作文教室（オンライン）
1/25（木）19時から20時半 フォローアップ講座
1/26（金）17時半から19時半 中級学習会
1/30（火）15時から17時 読書会（オンライン）
1/30（火）17時から18時 オンライン新年会（“Júlia Sigmond 90”をめぐって）
2/5（月）20時から21時 作文教室（オンライン）
2/7（水）19時から20時 事務所整頓作業
2/13（火）19時から20時半 センター委員会（オンライン）
2/15（木）19時から20時半 フォローアップ講座
2/16（金）17時半から19時半 中級学習会
2/19（月）20時から21時 作文教室（オンライン）
2/22（木）19時から20時半 フォローアップ講座
2/26（月）20時から21時 作文教室（オンライン）

2/27 (火) 15時から16時 自由会話 (オンライン)
2/27 (火) 16時から18時 読書会 (オンライン)
3/1 (金) 17時半から19時半 中級学習会
3/4 (月) 20時から21時 作文教室 (オンライン)
3/6 (水) 19時から20時 事務所整頓作業
3/9 (土) 14時から16時 維持員総会
3/9 (土) 16時から17時 センター委員会
3/14 (木) 19時から20時半 フォローアップ講座
3/15 (金) 17時半から19時半 中級学習会
3/19 (火) 15時から16時 自由会話 (オンライン)
3/19 (火) 16時から18時 読書会 (オンライン)
3/19 (火) 20時から21時 作文教室 (オンライン)
3/21 (木) 19時から20時半 フォローアップ講座
3/23 (土) 13時から14時 会話を楽しむランチ会 (サイゼリア)
3/28 (木) 19時から20時半 フォローアップ講座
4/1 (月) 16時半から19時 Andreさん歓迎夕食会
4/3 (水) 19時から20時 事務所整頓作業
4/8 (月) 19時から20時半 フォローアップ講座
4/11 (木) 20時から21時 作文教室 (オンライン)
4/15 (月) 19時から20時半 フォローアップ講座
4/18 (木) 19時から20時半 フォローアップ講座
4/19 (金) 17時半から19時半 中級学習会
4/22 (月) 20時から21時 作文教室 (オンライン)
4/25 (木) 18時半から19時 「センター通信」 発送作業
4/25 (木) 19時から20時半 センター委員会
4/29 (月) 20時から21時 作文教室 (オンライン)
4/30 (火) 15時から16時 自由会話 (オンライン)
4/30 (火) 16時から18時 読書会 (オンライン)

今後の活動予定

□ NEC活動年表

名古屋エスぺラントセンターは1974年に創立（その前身は1973年発足の「エスぺラントの部屋」）し、今年は創立50周年になります。これを記念して、活動年表を作成しているところです。6月を完成のめどとし、ウェブ上で公開を予定しています。

□ 会話を楽しむランチ会

第1回のランチ会は3月23日（土）に4人が参加して行われました。食事しながら気軽にエスペラントでの会話を楽しむことを目的にしています。今後不定期ではありますが、およそ2ヶ月に1回程度開催していく予定です。第2回は5月11日（土）に、インド・ネパール料理店で行います。予約は山口<syam-z@wa2.so-net.ne.jp>へ。

□ 関西エスペラント大会

第72回関西エスペラント大会が、6月29日（土）・30日（日）に京都市国際交流会館で行われます。今年の日本エスペラント大会は、日韓共同で韓国での開催となりますので、この関西大会が国内では事実上最大規模のイベントとなります。名古屋からも多数の参加が予定されています。

□ 世界エスペラント大会

第109回世界エスペラント大会は、8月3日（土）から10日（土）にかけて、タンザニアの町アルーシャで開催されます。キリマンジャロの近くに位置しています。山本由紀子さんが参加予定です。

□ 日韓共同開催エスペラント大会

詳しくは<<https://jek.jei.or.jp/ja/111hejmo-ja/>>をご覧ください。

▶ 編集後記

○私事ですが、先日熊野古道を歩いてきました。滝尻から熊野本宮までの中辺路といわれる35kmあまりの道です。アップダウンがかなりあって、累計標高差では登り2627m、下り2628m。一泊二日を要します。想定以上に外国人が多く、私が途中で出会った日本人はほんの数人、全体の数%くらいしかいませんでした。私が泊まったゲストハウスの方も「ここ数ヶ月、日本人のお客様は久しぶりです」とおっしゃっていました。オーバーツーリズムが問題ですが、インバウンドの流れは当分続くでしょう。アンドレさんの所属するエスペラント会では施設のパンフレットをエスペラント版でも用意している、とのことでしたが、私たちも試みてはどうかと思います。（山口）

センターの会員（維持員）募集中

A:月500円 / B:月1,000円 / C:月2,000円 / D:月3,000円

ランクによる会員資格に差はありません。ランク別及び振込月数を明記して郵便振込（口座番号は表紙タイトル下）へお願いします。メールアドレスがあれば、それもあわせてご記入ください。